

ナマズ (ナマズ科)



学名 : *Silurus asotus*

別名 : マナマズ

大きさ : 全長 60 cm

特徴 : 体色は暗褐色もしくはオリーブ色で、不規則な雲型の斑紋があることが多い。大きく扁平な頭部と幅広の口をもち、下あごが上あごより突出し、長い口ヒゲがある。体表は粘液でヌルヌルしている。

河川の中・下流域、湖沼の砂泥底に生息し、水草の繁茂するところや岩の間など、隠れ場所や体を寄せることのできる場所を好む。日本の淡水域では食物連鎖の上位。夜行性で魚類、エビ類、カエル、その他の小動物を捕らえて食べる。5~6月頃、田んぼや岸辺の浅場で産卵する。

国内の分布 : ほぼ日本全土

県内の分布 : 県内河川湖沼に広く分布

県内での生態 : エサを襲うとき、髭が触覚の働きをする。ふ化後数日でエサを待ちかまえるようになり、個体密度が高い場合は仲間の仔魚にも攻撃を加えるなど自体重に近いサイズのエサを食べられる。飼育観察によれば、雌雄の成長差が大きく、



写真 : ふ化後2日目のナマズ仔魚。

雌が雄よりも常に大きい。

備考 : 白身で脂がのり美味。蒲焼や天ぷらなどが好まれる。

霞ヶ浦・北浦の水郷には、かつて多くのナマズが生息した。漁業者の話では、江間（エンマ）と呼ばれる集落の間をめぐらされた水路や田んぼで産卵する姿がよく見られたが、圃場整備と築堤が進んだ昭和40年代から数が激減したという。川と水田の結びつきが断たれたことなどから、県内の生息数は少なくなったとみられる。

主な文献 :

熊丸敦郎 (2000) ナマズの養殖技術に関する研究—
I ナマズの飼育特性について. 茨城内水試調査研究報告, 36: 1-15.